

着ぐるみ使用上の注意事項

1. 着用者について

身長165cm以下の細身の人が基本となります。

(胴体部、高下駄の内部がかなり細身になっているため、肩幅が広いまたふくらはぎ部が太いと着用できません)

また、「きららん」のイメージを均一化させるためにも、身長制限を守って下さい。

2. 着脱するとき

- ① 着脱の際、着ぐるみを汚損しないよう細心の注意をもって取り扱うこと。
- ② 着ぐるみ内部が高温となるため、装着の際はできるだけ軽装になること。
- ③ 着脱時、関係者以外（特に子ども）の目に触れないよう注意すること。
- ④ かんざし部分は、破損しやすいため、会場に入る直前に装着すること。
- ⑤ 頭に頭部全体の重量がかかるため、頭に手ぬぐいを巻くなどして軽減すること。

3. 活動するとき

- ① 着ぐるみを汚損しないよう細心の注意をもって取り扱うこと。
- ② 雨雪の下では原則として使用を控えること。なお、使用中に雨雪となった場合は、速やかに中止すること。
- ③ 足下の視界が悪いため、活動の際は必ず誘導係を付けること。また、小さい幼児等にぶつかったり、倒したりする恐れがあるので、急に振り向いたり、急に走り出すのは避け、転倒にも十分注意すること。
- ④ 熱が本体にこもり、長時間着用すると気分が悪くなることもあるので、適宜休憩すること。（1回の出演は20分程度が望ましい）
- ⑤ 着用者は声を出さないこと。ジェスチャー以外で「きららん」から何かメッセージを伝える必要がある場合は、司会者等が「きららん」から耳打ちされる形で代弁してあげること。 ※基本的にはきららんは言葉を発しない
- ⑥ かんざし部分のみ、硬い素材のため観覧者等にあたらないよう、誘導係は配慮すること。

4. 使用後

- ① 風通しの良い場所で、頭部、胴体部とも十分乾燥させてから返却すること。また、必要に応じて消臭スプレー等で消臭すること。
- ② 破損、部品を紛失した場合、直ちに申し出ること。

着ぐるみ使用上の注意事項

5. 着用順序

- ① 手袋着用
- ② 胴体（着物）着用
 - 横帯のフックをはずす
 - 背ファスナー（外・内2本あり）
 - ・外側のファスナーを下げる（上部襟の部分を押さえながら）
 - ・内部のファスナーを下げる
 - 最初に手を通してから、胴体（着物）をはく
 - または、バンザイ状態で上からかぶった後、手を通す
 - ファスナーを上げる（内そして外の順番）
 - 横帯のフックを止める
 - 前帯（下げ帯）を付ける
- ③ 下駄(靴)を履く（内部にサンダル、左右別あり）※付添い者が履かせた方がスムーズ
- ④ 頭部を載せる前に、着用者は頭に手ぬぐい（剣道方式がよい）タオルなどを載せる
- ⑤ 頭部を載せる（補助者2名で両脇から）
 - ※頭部に触れる場合は、必ず添付の白手袋または軍手を使用すること
- ⑤ 補助者が頭部の内部にあるヘルメットのあご紐をセットする（または手袋をはずし本人）
- ⑥ 頭部のかんざしをセットする

6. その他の重要事項

- ① 控室から出入りする際は、横に歩く（かに歩き）こと（かんざしの破損に注意）
頭部は横が約130cm、厚みが85cm（幅90cmのドアでも内開きの場合には通れない）
- ② 着ぐるみ収納ケースのサイズと運搬時の自動車のケース積込み間口を事前にチェック
会場および控室の出入口の間口サイズを事前にチェック（通過可能な出入口を確認）

※着ぐるみを脱ぐ場合は、上記の逆手順となる

きららん着ぐるみの各部位の説明

<全体図>



<胴体部：背中ファスナー2本あり>

<前 帯(下げ帯)>



<高 下 駄>

きららん着ぐるみ参考ポーズ

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



【この他のポーズ】

(立ち止まった状態)

※ ①または②の片足を開いて傾け、足を開いた方に頭を少し傾げるポーズ

※ 片手または両手をゆっくり横に振る

片手を振る場合は、もう一方の手を前帯の上部に添えた形がきれいです

※両足を開くのは形が悪いため、禁止（足を開く場合は片足のみ）

(歩きながらの場合)

※ 手を横に振る（これ以外の動きは困難と思われます）

【追加注意事項】

※ 歩く場合は、アテンド者が片方の手を取って誘導してください（視界が悪いため）

※ 頭部の後ろ側が重いため、バランスを崩すと頭を後ろに持っていかれ、倒れる可能性があるため着用者及びアテンド者は注意が必要